

# 世界に通じるその思想 この地に生まれる

盛岡とビクトリア  
まさに新渡戸稲造が  
架け橋となった両市で咲きほこる  
ハンギングバスケット



新渡戸稲造は、文久2年（1862）南部藩士新渡戸十次郎の三男としてこの地に生まれた。《中略》稲造は、農政学を専攻し農学博士、法学博士の学位を受け、札幌農学校教授、京都帝国大学教授、第一高等学校長、東京帝国大学教授、東京女子大学長として青年の教育にあたった。また行政官として台湾の開発にあたり、国際人として欧米に活躍した。稲造は常に東西文明の融合を理想とし「太平洋のかけ橋たらん」と志し、第一次世界大戦後は国際連盟事務局次長に選任され、その公正なる言動は「連盟の良心」と称せられるようになった。

案内板より  
ハンギングバスケットシティとも呼ばれるビクトリア市。新渡戸稲造を縁に姉妹都市提携となり、その後、ビクトリアの文化ともいえるハンギングバスケットは盛岡でその設置数が、日本一となるまで普及しました。

